

●本会の動き●

2016年度部会活動功労賞 (部会CT賞) The Award for Distinguished Service to SCEJ Divisional Activity

[部会CT賞表彰にあたって] (成瀬一郎 部会CT長)

化学工学会では、基盤技術分野として6部会および展開技術部会として8部会がそれぞれ横系および縦系として各学問分野での専門家集団を形成し、その分野の学会代表として積極的な活動を行っております。また、国際的にも我が国の研究者集団の代表として国際シンポジウムの開催を行う等、積極的に寄与致しております。このような部会活動は部会員の皆様の御努力によって支えられておりますが、特に若手会員の不断の貢献に因るものが大であります。この貢献に少しでも報いるべく2010年度より部会活動功労賞として部会CT賞が設けられました。

今回で7回目の表彰となり、引き続き貢献された個人のみならずグループにも表彰できる仕組みがございます。本年度は、企画、運営等の部会活動の活性化に大きく貢献された以下の2名の方を受賞者として選定致しました。受賞者への表彰は、2017年3月に芝浦工業大学で開催されました年会初日の開会式にて行われました。受賞者のこれまでの献身的な貢献に感謝するとともに、今後とも部会を始め化学工学会の諸活動に御支援賜りたく、ここにお願い申し上げます。

最後に、この度受賞されました2名に、心よりお祝いを申し上げます。

なお、第82年会における表彰式では、都合により、本部大会運営委員長林潤一郎氏より賞状・副賞を授与いただきました。

(以下、受賞者五十音順)

(以下の文章は、受賞決定時点(2016年11月)のものです。)

分離プロセス部会における 部会活性化と国際会議運営に関する顕著な貢献

大島 達也 氏(宮崎大学)

【分離プロセス部会】

大島氏は、分離プロセス部会において、以下のように、部会の活性化ならびに庶務活動、および部会に関連する国際会議運営において多大な貢献をされました。

大島氏は2009年度から2010年度において、分離プロセス部会の幹



右：大島 達也氏
左：林 潤一郎 本部大会運営委員長

事(抽出分科会副代表)を務められ、その後、2011年9月に開催された「化学工学会第43回秋季大会」では、分離プロセス部会シンポジウムオーガナイザーを担当されました。2013年度から現在まで、分離プロセス部会の幹事を務められ、2013年度から2014年度は「広報担当」、2015年度から2016年度は「庶務担当」と、非常に重要な役割を担ってこられました。広報担当としては、部会の主要行事等の会告や報告書の取りまとめ、ならびにウェブサイトやニュースレターでの公開を行い、部会情報の継続的な発信にも貢献をされました。庶務担当としては、分離プロセスのさらなる進化のために、『分科会横断』、『部会横断』、『産学官連携』などの積極的な活動が求められている現状を踏まえて、部会運営の取りまとめを行われ、2016年9月に開催された「化学工学会第48回秋季大会」では、【特別シンポジウム】1件、【部会横断型シンポジウム】1件、【分離プロセス部会シンポジウム】8件と、学会での非常に活発な活動の礎を築いていただきました。

また、分離プロセス部会の発展には、『学会横断』と『国際化』も非常に重要であり、部会に関連する他学会との連携において、大島氏は「日本溶媒抽出学会」の事務局を担当しており、国際会議運営においては、3年に1度開催されている溶媒抽出に関する国際会議「ISEC (International Solvent Extraction Conference)」が、2017年11月に宮崎で開催予定であり、本国際会議に分離プロセス部会が協賛するとともに、大島氏が事務局長を担当することになっていきます。

以上のように、大島氏は分離プロセス部会の活性化のため、広報ならびに庶務活動において顕著な貢献をされただけでなく、分離プロセス部会のさらなる発展のため、『分科会横断』、『部会横断』、『産学官連携』、『学会横断』、『国際化』への貢献も多大であったと考えます。

以上の理由により、部会CT賞の受賞に相応しいと認められました。

環境部会における
企画・活動における顕著な貢献

寺田 昭彦 氏(東京農工大学)

【環境部会】

化学工学会の環境部会は、水環境プロセス分科会、地球環境分科会、リサイクル分科会、環境システム分科会の4つの分科会からなり、水・土壌・大気に関連するあらゆる環境問題をナノスケールから地球規模といった様々なスケールから俯瞰し、問題解決の提言・技術開発を行う、学際的・分野融合的・実践的な要素が高い部会といえます。その中でも、分野横断的な企画に基づく最新の環境研究・環境技術の紹介や異分野間・異業種間の人的交流は、部会員のみなさんだけでなく学会全体への情報や技術の提供につながり、部会・学会の活性を高めていくために極めて重要と考えています。寺田氏は、2014年度から現在まで環境部会の幹事および会計担当として、また環境バイオテクノロジーに関連する研究を通して、部会の活性化のための企画・運営に貢献をしてきました。以下に、中核的な役割を担ってきたイベントについて紹介します。

2015年3月19日(木)～21日(土)に開催された化学工学会第80年会ではInternational Symposium on “Environment Quality Improvement by Biomass in Asia”の企画運営・座長を担当しました。アジア国際賞の受賞講演と4つの招待講演をハイブリッドさせた国際シンポジウムは、中国・台湾からの講演者と3名の日本人研究者が独自の視点からバイオマスの利活用技術、環境浄化技術の紹介を行いました。講演者の専門がエネルギー・環境・バイオ・材料開発と多様性が高く、様々な切り口で環境・エネルギー問題に取り組んでいく重要性を共感できる国際シンポジウムでありました。また、若手研究者間の活発な意見交換がなされ、学際的なネットワークの構築により新たな技術の創出を予感させるものでした。

2014年9月17日(水)～19日(金)に開催された化学工学会 第46回秋季大会では、バイオ部会と環境部会の共催で「時代を切り拓くバイオフィルム工学」のオーガナイザーの一人として企画・運営、ならびに事務局作業に携わりました。当日は座長を務めたほか、



右：寺田 昭彦氏
左：林 潤一郎 本部大会運営委員長

微生物の凝集体とそのポリマーで構成されるバイオフィルムを制御する材料開発の紹介と環境分野への応用と展望に関する講演を行い、環境分野と多分野と学際的な研究の重要性を喧伝されました。

グリーン・イノベーションEXPOは、本学会と一般社団法人日本能率協会が主催する水処理技術、省エネ化技術、産業のグリーン化のための材料・技術に関する展示会ですが、その中で産学官マッチングフォーラムが開催されています。寺田氏は、2014年11月12日(水)～14日(金)に開催されたグリーン・イノベーションEXPO2014において、産学官マッチングフォーラムとして「廃水処理・日独先端科学技術フォーラム」の企画、ドイツ側の講演者の選定・交渉を担当しました。1990年代に発見された新しい窒素変換を行うアナモックス細菌を用いた低コスト・省エネ型排水処理プロセスの実用化を精力的に進めているSusanne Lackner教授をドイツから招聘するとともに、世界的権威の日本の先生方・世界最先端の水処理技術を牽引する技術者に水処理技術に関する講演を頂き、大変盛況に終わりました。

また、寺田氏は2017年3月に開催される第82年会においても、環境部会のシンポジウム開催に向けた準備を進められており、他部会との分野横断的・実践的研究の重要性を示すことで環境部会の研究活性化に大きく貢献しています。

以上の理由により、部会CT賞の受賞に相応しいと認められました。